

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	平成28年7月28日	連携先名称	鹿児島県喜界町
活動状況	継続中	連携先窓口	—
活動資金	個人	担当教員(所属)	杉原たまえ(国際農業開発学科)
活動体制(単位)	学科	関連教員(所属)	豊原秀和(名誉教授)
活動内容	<p>1. 平成30年度は、喜界町役場支援センターの協力を得て、ダイジョ(Dioscorea alata L.)品種を本学宮古亜熱帯農場から導入し、希望農家への講習会(約30名)を実施した。農家に対しては種イモとして各戸5kg単位で分配を行い、栽培を開始した。収穫したヤムイモで、パウダーの試作をおこなった。</p> <p>2. 島オリジナルの柑橘類を集めた果樹園では、収穫まで4年くらいかかるため、除草や追肥などの管理作業を主体に行った。30年度は、台風による塩害を被り、数本が枯死する事態になった。</p> <p>3. 喜界島の基幹作物であるサトウキビは、昨今の異常気象などにより糖度(Brix)や収量の低下が懸念されている。そこで生産量とBrixを上げる目的で、株式会社万田発酵の協力を得て、万田31号の葉面散布試験を行った。</p> <p>4. 高齢化が進む中、高齢者でも容易に栽培が可能な作物の導入を目的に、地域支援センターの協力を得て、栽培試験を行った。キクイモ、ムクナ、チチャモラーダなどの機能性の高い作物を導入した。</p>		
活動成果	<p>1. ダイジョについては30件ほどの農家が栽培に着手した。農家からは生重1kg200円で購入し、株式会社全笑の協力を得てパウダー化を行い、商品化することに成功した。パウダーは、お湯に溶かすことにより「とろろ」や菓子加工の利用が可能となる。菓子加工については、次年度に実施する予定である。</p> <p>2. サトウキビへの万田31号の葉面散布については、生産量やBrixを上げる効果が認められた。生長量については通常2.5m位であるが、万田31号を葉面散布した畑は3m位になった。Brixについては、葉面散布を行った畑の場合2度ほど上がった。黒糖の食味も高く評価された(試験データ添付)。</p> <p>3. 新規導入作物については、次年度も継続して試験栽培を行い、結果次第で農家への普及を始める。</p>		
課題・改善点	<p>1. ヤムイモについては、加工後に褐変する品種があるため、加工開始後は迅速な処理が必要であるにもかかわらず、人手不足から加工作業に移行できず、長期保存を余儀なくされたため、一部腐敗に至ってしまった。今後は、人手不足の解消と、褐変防止対策が喫緊の課題である。</p> <p>2. サトウキビ以外の作物については、台風対策が急務である。特に柑橘類は塩害により枯死してしまう状況にあった。そのため、柑橘を中心とした果樹園では、台風対策のための柵を設置することを検討中である。</p> <p>3. 資金面において、30年度は台風や豪雨により甚大な被害を受けた家屋や寸断した道路などの修復が優先課題であったため、行政からの資金援助が全く得られなかった。そのため個人の負担に抛るところが大きかった。今後は行政や喜界島出身者と問題点を共有し、連携活動資金の調達の方策についても模索しなければならない。</p>		

2019. 5. 13

東京農業大学×鹿児島県喜界島 連携協定に基づくヤマイモの製品化

喜界島にて収穫したヤマイモ



カットヤマ



冷凍ヤマイモ



ヤマイモパウダー



(実施：豊原秀和)